

新春恒例の 「歌会始の儀」で入選



東大阪市在住で瀬利覚字出身のご息女
瀬利由貴乃さん（高校2年生）

人々が同じ時間に立ち止まり
空を見上げた金環日食

新春恒例の「歌会始の儀」が、1月16日、皇居・宮殿「松の間」で行われ、東大阪市在住で瀬利覚字出身の瀬利悦男さんの長女、瀬利由貴乃さんが、天皇、皇后両陛下の前で歌を詠まれました。



前列右から瀬利由貴乃さん、祖母のアリ子さん。後列右から母の貴子さん、父の悦男さん、親戚の藤崎満男さん。（大阪沖洲会総会にて）

・写真提供 中山洋一さん（神戸沖洲会）
・資料提供 永野靖彦さん（千葉沖洲会）

前田中森氏（故人）が 旭日単光章を受章



上平川字の前田中森氏（故人）が、このたび旭日単光章を受章され、3月7日、町長室においてご家族に対し叙勲の伝達が行われました。

前田氏は町議会議員（4期16年）として、養護老人ホーム長寿園や町の認可保育所第1号となる田皆保育所など、福祉施設及び教育施設の整備促進に尽力し、町民福祉の向上と教育行政の振興に貢献されました。

また、知名町消防団上平川分団長として、地域の防火体制・防災意識の啓発、団員の育成や機材の充実、消防水利の確保等消防施設の整備にも尽力し、消防団の発展に貢献されました。

石材彫刻博士が石垣を修復

昨年、の台風第15号で崩壊した黒貫字の民家にある石垣を修復するため、同字在住で石材彫刻博士の高風栄治さんが、手作業で1個ずつ石を積み上げ、作業を行っています。

高風さんによると、石垣は台風による影響のほか、以前からガジュマルの根が石垣の間に張って変形していたため、全て取り崩したとのこと。1月から仕事の合間を縫ってこの作



手は使わず、重機などは使わず、石垣を重機で重く作ります。



石材彫刻博士の高風栄治さん

業を続け、再度石垣を積み上げるために、元の石を削るなど、丁寧に修復作業が続けられています。完成までにはしばらくかかるということです。